

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/11/28

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年12月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは11月28日（金）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		11月26日現在	12月の予想 (月末値)		
USD	ドル・円 (円)	156.47	148.0	～ 162.0	150.0
	財政懸念根強く円安進行も、160円超では為替介入も視野に				
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.160	1.14	～ 1.20	1.16
	ユーロ・円 (円)	181.43	172.0	～ 186.0	174.0
	様子見姿勢を維持するECBのもと、ユーロは底堅さが継続				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.324	1.30	～ 1.34	1.32
	ポンド・円 (円)	207.20	196.0	～ 208.0	198.0
	財政に関する懸念や英中銀利下げが英ポンドの重石に				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	101.99	97.0	～ 105.0	99.0
	NZドル・円 (円)	89.15	85.0	～ 91.0	88.0
	豪中銀のタカ派姿勢が豪ドルを下支え				
株式 相場	日経平均 (円)	49,559	46,000	～ 52,000	50,000
	需給及びセンチメントの悪化で上値の重い展開が続こう				
	NYダウ (ドル)	47,427	45,000	～ 49,000	48,000
長期 金利	日本株と同様に上値の重い展開が続こう				
	日本 (%)	1.809	1.70	～ 1.85	1.75
	日本銀行の利上げ期待と財政拡張懸念で長期金利は高止まり				
	米国 (%)	3.994	3.75	～ 4.25	4.00
米経済は中期的に底堅く推移し、金利は小幅に上昇しよう					

◆ 今月の注目ポイント

日銀利上げとFRB利下げがもたらす為替への影響

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	◎	【日本利上げ+米国利下げ】FRBはこのところ雇用関連指標の鈍化傾向が目立ち12月25bp利下げとの見方が有力となっている。一方日銀は円安が進行する中審議委員の12月利上げを意識したコメントが聞かれるようになってきている。本来円高要因であるが、足もと金利差との連動性は低く、仮に実施された場合は次回の政策に対する言及が焦点となろう。日銀の次回利上げが意外に近いとの思惑（円高）やFRBの次回利下げが意外に遠いとの思惑（ドル高、リスク資産の調整）が材料に。
	○	【国債需給と金利上振れ】2025年度補正予算は高市政権の積極的な財政スタンスを反映して、当初想定よりも大規模なものとなる見込み。報道によればこれにより12.7兆円の国債を発行する見通しであり、超長期ゾーンの需要が低いことからそれ以外のゾーンでの増発が見込まれている。また2026年度予算も焦点。思惑としては大規模財政が意識されやすい。来年度の国債発行計画が見えてくる中下旬までは金利は上振れバイアスのある不安定な展開となる可能性がある。

◆ アジア通貨見通し

	11月26日現在	12月の予想 (月末値)		
人民元・円	22.14	21.50	～ 23.00	21.12
バーツ・円	4.854	4.70	～ 5.00	4.90
ルピア・円	0.939	0.89	～ 0.97	0.91

◆ 今月の重要日程

1日 (月) 日	植田日銀総裁講演	19日 (金) 日	11月全国CPI
1日 (月) 米	11月ISM製造業景況感指数	19日 (金) 日	日銀金融政策決定会合
3日 (水) 米	11月ADP雇用統計	23日 (火) 米	12月消費者信頼感指数
10日 (水) 米	FOMC	29日 (月) 日	日銀「主な意見」
18日 (木) 英	BOE金融政策委員会	31日 (水) 中	12月中国PMI
18日 (木) 欧	ECB理事会	31日 (水) 米	FOMC議事要旨

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2025/11/28

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年12月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



出所：Bloomberg

米ドル円

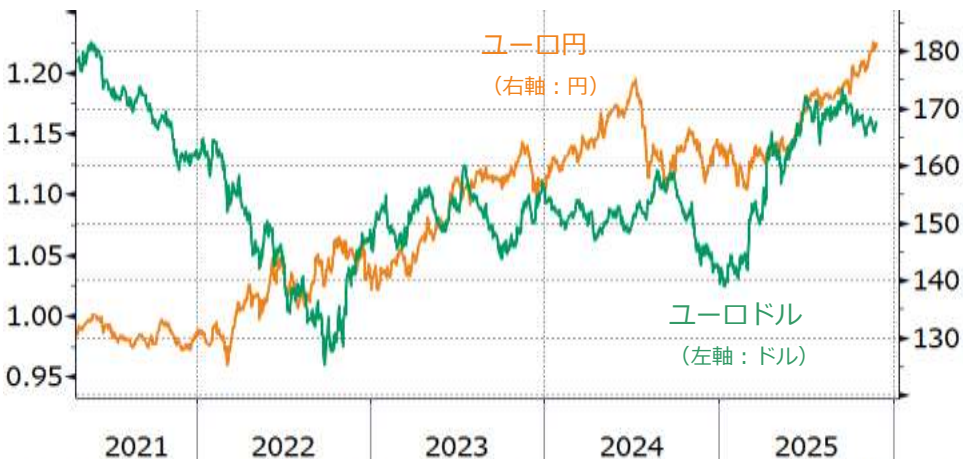
148.00 – 162.00円

財政懸念根強く円安進行も、160円超では為替介入も視野に

11月のドル円は、月を通じて上昇しやすい地合いとなり、下旬にかけては1ドル155円を突破した。高市政権による財政拡張的な政策に対する期待感が引き続き根強い、これまで本邦政府が目標としていたプライマリーバランス単年度黒字化を事実上取り下げたことが、財政に対する懸念を大きくし、債券と為替の「日本売り」の原動力になっているとみられる。

12月のドル円は、150円台半ばを中心に、市場の織り込む日米ターミナル金利差と期待インフレ差を反映した理論値である150円付近をやや上回るレンジでの推移を引き続き想定している。理論値との乖離は高市首相の拡張財政的な政策に対する警戒が主因であろうが、政府がプライマリーバランス単年度黒字化に代わる新たな財政目標として当初、政府「純」債務残高対GDP比の改善を掲げていたことも、円安進行が同指標の改善につながるという面から政府の円安許容姿勢が想起されたところも大きいとみられる。ただし、目標として用いる指標は政府「総」債務残高対GDP比に修正されており、片山財務相からも「円安のマイナス面が目立ってきた」という趣旨の発言があったことから、政府の円安許容度が劇的に高まったとは言い難く、1ドル160円を超える水準では為替介入への警戒感が高まる。

ユーロ



出所：Bloomberg

ユーロドル

1.14 – 1.20ドル

ユーロ円

172.00 – 186.00 円

様子見姿勢を維持するECBのもと、ユーロは底堅さが継続

11月のユーロは、対ドルは概ね横ばいとなったが、対円ではさらに上昇が続いた。上旬は前月末の下落からの買い戻しが入ったが、中旬頃からは米政府機関の一部閉鎖解消に伴うドル買い戻しや米FRBによる12月利下げ観測の後退などを受けて対ドルで下落に転じた。しかし、ユーロ圏の景況感は底堅い状況が続いており、ECBが来年にわたって様子見姿勢を維持するとの見方がユーロを下支えた。また、下旬には米FRBの12月利下げ観測が再浮上したこともあり、ユーロドルは前月末同水準程度で下げ止まりの動きをみせている。

12月のユーロは、対ドルでは引き続き底堅い推移が続くとみる。目先のFRB利下げ有無については、市場は右往左往しているものの、大局的にはFRBの利下げ vs ECBの金利据え置きという構図に変化はなく、ユーロは底堅い展開が続こう。対円については、円が売られやすい地合いが続きそうだが、日銀が早期利上げを示唆すれば上昇は一服も。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2025/11/28

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年12月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



出所: Bloomberg

ポンドドル

1.30 – 1.34ドル

ポンド円

196 – 208円

財政に関する懸念や英中銀利下げが英ポンドの重石に

11月の英ポンド相場は対ドルで徐々に底入れし、対円で堅調に推移した。2025年秋予算の公表を控えて上旬は警戒感が強まり下値を探る場面も見られた。しかし、増税観測が浮上する中、下値も限定的。高市政権の財政への警戒が高まった対円では上値追いが鮮明となった。公表された2025年秋予算は英国債の発行額がコンセンサス程度となり、目先の英ポンドには安心材料となった。

12月の英ポンド相場は反落を見込む。2025年秋予算のイベントは終了したが、英国の財政懸念はくすぶる。更なる増税の議論等、不安定な状況となりやすく、対ドルの上値を抑えよう。一方、日本については英国同様財政懸念がくすぶり円安圧力となる。しかし、金融政策面で英中銀は12/18会合での利下げが見込まれる。利上げを志向する日銀との金融政策面でのデカップリングが意識されることから、対円でも上値の重い展開が予想される。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



出所: Bloomberg

豪ドル円

97.00 – 105.00円

NZドル円

85.00 – 91.00円

豪中銀のタカ派姿勢が豪ドルを下支え

11月のオセアニア通貨は、対ドルでは下落、対円では月初に下落したもののその後月末にかけて値を戻す展開となった。4日には豪中銀会合で政策金利据え置きが決定され、インフレに対する警戒感が示されたことからタカ派的との受け止めがあった。また、13日の豪雇用統計では雇用者数変化・失業率ともに市場予想を上振れる結果となり、労働市場の底堅さが示されたことで中銀の慎重姿勢を後押しするものとなった。このように、環境は豪ドルをフォローする状況となったものの、米FRBの12月利下げ観測後退やAIブームに対する懸念から米ハイテク株が調整するリスクオフ寄りの展開となったことで、対ドルでは弱含んで推移しやすかった。

12月のオセアニア通貨は、米FRBの12月利下げ観測再浮上や豪中銀の利下げに対する慎重姿勢から、堅調な推移を見込む。ただし、日銀が12月もしくは1月の早期利上げを示唆した場合には、対円については上昇が一服する可能性が高いとみる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

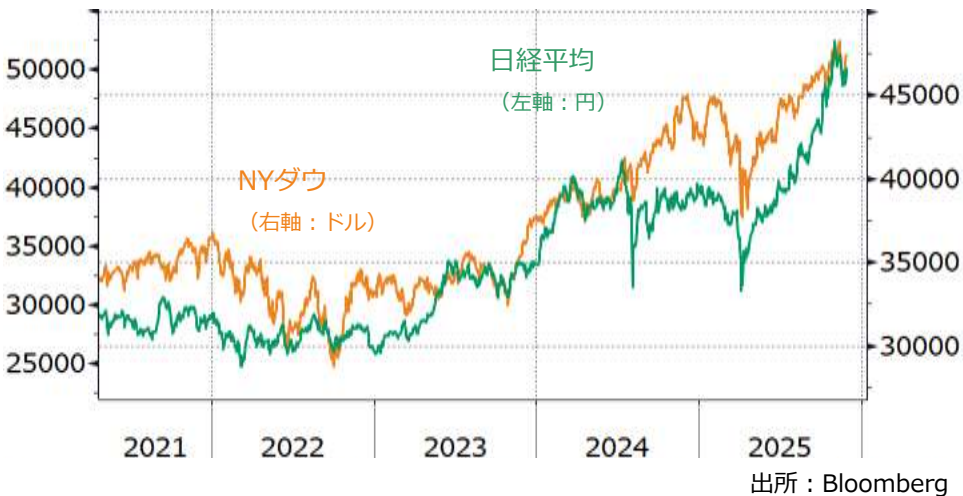
2025/11/28

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年12月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

46,000 – 52,000円

需給及びセンチメントの悪化で上値の重い展開が続こう

日経平均株価のフェアバリューは47,000円 – 50,000円程度とみられる。ただし、需給が悪化してきており、フェアバリューを下方に乖離する可能性が高まりつつある点には留意したい。また、高止まりする日経VI指数や信用買い残の増加は、ポジティブ材料で売り急ぎを誘発しかねないため、上値も重いと見られる。ファンダメンタルズは底堅いため、需給とセンチメントの改善が進めば、再び株価は上昇基調に回帰しよう(過去の傾向からは、少なくとも50日程度を要する)。

NYダウ

45,000 – 49,000ドル

日本株と同様に上値の重い展開が続こう

基本的な見方は日本株と同様である。象徴的な出来事として、エヌビディアの好決算が売り材料視されたことは特筆に値する。一部の空売りファンドが、飛躍した論理によってAIバブルを警告したことが背景にあるが、こうした荒唐無稽な話にマーケットが反応するあたりに、投資家のセンチメント悪化具合が窺える。幸い、流出した資金はバリュー株に流れており、株式市場全体からの資金流出は窺えないが、バリュー株も下落を始めた場合は、急落リスクに備えるべきだろう。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

1.70 – 1.85%

日本銀行の利上げ期待の維持と財政拡張懸念で長期金利は高止まり

1日には植田日銀総裁の講演が予定されており、7-9月期のマイナス成長を過度に懸念するような発言がなければ、19日の決定会合に向けて利上げ期待が維持されていくだろう。また、真水規模17兆円を超える景気対策を政府は打ち出しており、月末にかけては来年度の予算編成と国債発行計画の議論が本格化する。日銀の利上げ期待と財政の拡張懸念で長期金利は高止まりが続くそう。

米国債10年

3.75 – 4.25%

基本的な見方に変化はない。米経済は中期的に底堅く推移しよう

米金利は4.10%～4.20%程度を妥当レンジとみる。期待インフレ率の低下を反映し、妥当レンジを下方修正した。尤も、市場想定よりも米経済が底堅く推移するとの見通しは維持している。労働市場の軟化は、低スキル人材が中心で、富裕層が米経済を支える構図に変化はない。個人消費はここまでの株価調整で一旦停滞する可能性があるものの、中期的には株高を見込むため個人消費も底堅かろう。そして、そうした状況が確認されるにつれて、金利は小幅に上昇しよう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

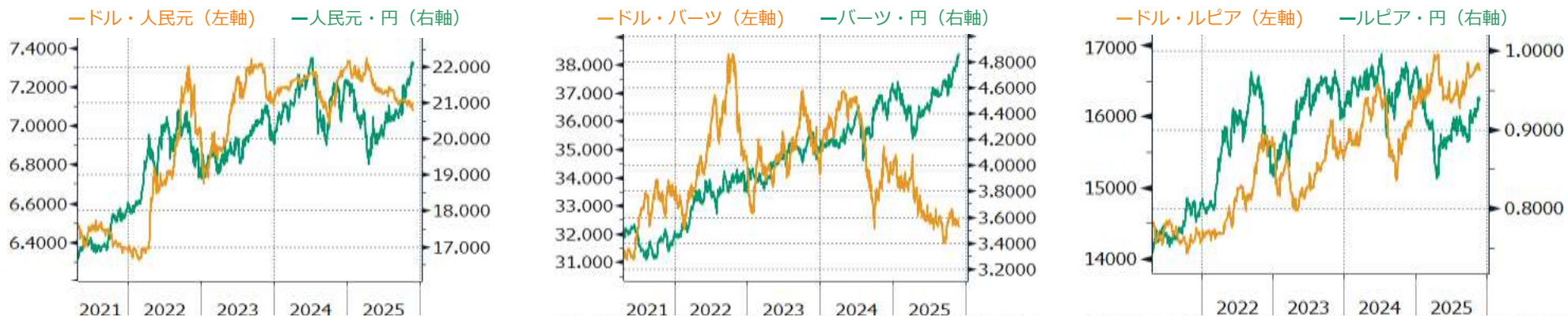
2025/11/28

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年12月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		12月の予想			見通し
中国	人民元/円	21.50	～	23.00	FRBの利下げ局面が継続しドル/人民元はレンジを切り下げか 米中貿易協議は双方の強硬な措置が回避されることになり、1年間の問題の先送りという結果にはなったものの、最悪な結果は回避された。今後は米中金融政策などによる金利差に市場のフォーカスが戻り、当面はFRBが利下げを継続することでドル/人民元はレンジを切り下げた推移になりそうだ。
	ドル/人民元	7.05	～	7.15	
タイ	バーツ/円	4.70	～	5.00	観光需要の回復や経常収支の改善を背景に、対ドル・対円で底堅い展開 11月のバーツ相場は対ドル、対円で底堅く推移した。①タイの経常黒字拡大②バーツ相場と連動性の高い金価格の上昇③FRB利下げ期待によるドル安④日本の財政警戒等を背景とした円安が背景となった。12月も対ドルと対円で底堅い展開を見込む。国内要因としては①観光需要の回復②経常収支の改善が見込まれる一方、日本の財政警戒による円の上値の重さは引き続きバーツ相場の下支え要因となろう。
	ドル/バーツ	31.6	～	32.6	
インド	100ルピー/円	0.89	～	0.97	日米の金融政策動向に振られやすい展開か 11月のルピアは対ドルではルピア安、対円ではルピア高となった。中銀会合での政策金利据え置き決定や随時の為替介入も、対ドルでじわじわとルピア安が進行している。国内の政局や財政を巡る不透明感には払拭されにくく、12月も軟調な推移を見込むが、日米の金融政策動向に振られる面もあろう。日銀が早期利上げ姿勢をみせれば、対円のルピア高も一服する可能性が高い。
	ドル/ルピア	16,300	～	17,100	



出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/11/28

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年12月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2025年			2026年									ポイント
		12月			1～3月			4～6月			7～9月			
ドル円	レンジ	148	～	162	140	～	160	140	～	160	140	～	160	日米金融政策の織り込みはある程度進んでいるが、米関税の影響がインフレ指標に表れ始めれば、FRBによる利下げ観測後退からやや円安が進行か。
	期末値	150			150			150			149			
ユーロドル	レンジ	1.14	～	1.20	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受けて今春より急速にユーロ高となった。関税合意の進展から一定程度ドル買い戻しの動きもあるうが、ECBは当面は様子見とのスタンスが示されたことでユーロは引き続き堅調に推移しそうだ。
	期末値	1.16			1.15			1.16			1.17			
ユーロ円	レンジ	172	～	186	160	～	180	160	～	180	160	～	180	
	期末値	174			173			174			174			
ポンドドル	レンジ	1.30	～	1.34	1.30	～	1.40	1.25	～	1.35	1.25	～	1.35	財政懸念がくすぶる中、引き続き増税等の議論が浮上しやすく上値の重い展開を想定。金融政策面でも日銀が利上げを模索し、ディカップリングが想定され、対円で上値を抑える。また米利下げが徐々に一服となり、対ドルでも上値は重くなるう。
	期末値	1.32			1.32			1.30			1.30			
ポンド円	レンジ	196	～	208	185	～	205	185	～	202	185	～	202	
	期末値	198			198			195			194			
ドル人民元	レンジ	7.05	～	7.15	6.90	～	7.15	6.90	～	7.15	6.90	～	7.10	米中の貿易交渉は最悪の結果は回避されたが、問題が先送りされたことで膠着状態が継続する。FRBは労働市場の悪化で利下げを早めることから、2026年序盤にターミナルに達し、その後はドル/人民元が横ばいの推移になっていく。
	期末値	7.10			7.00			7.00			7.00			
人民元円	レンジ	21.50	～	23.00	20.00	～	22.00	20.00	～	22.00	20.00	～	22.00	
	期末値	21.12			21.43			21.43			21.29			
豪ドル円	レンジ	93	～	105	93	～	105	96	～	108	96	～	108	インフレに対する警戒感や労働市場の底堅さから豪中銀は利下げに慎重な姿勢を見せている。FRBの利下げ継続もあいまって豪ドルは堅調に推移か。
	期末値	99			99			102			102			
タイバーツ円	レンジ	4.70	～	5.00	4.60	～	5.00	4.60	～	5.00	4.60	～	5.00	日銀の利上げもあり円売り圧力が徐々に緩和するも、観光業の回復や景気支援策がパーツの下支えに。
	期末値	4.90			4.80			4.80			4.80			

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/11/28

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年12月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
12/1(月)	7-9月期法人企業統計調査	11月ISM製造業景況指数	(中) 11月製造業PMI	12/22(月)		2年債入札	
12/2(火)	10年債入札			12/23(火)		12月消費者信頼感指数	
12/3(水)		11月ADP雇用統計				5年債入札	
		11月ISM非製造業景況指数		12/24(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (10/29~30開催分)	7年債入札	
12/4(木)	30年債入札	10月貿易収支		12/25(木)	11月住宅着工件数	(クリスマス)	
12/5(金)	10月家計調査				2年債入札		
12/8(月)	10月毎月勤労統計 (速報)	3年債入札		12/26(金)	11月鉱工業生産		
	11月景気ウォッチャー調査				11月労働力調査		
	7-9月期GDP (二次速報値)			12/29(月)			
12/9(火)	5年債入札	10年債入札		12/30(火)			
12/10(水)	11月企業物価指数	11月CPI	(中) 11月CPI	12/31(水)			(中) 12月PMI
		FOMC (結果発表)					
12/11(木)	20年債入札	11月PPI					
		30年債入札					
12/12(金)							
12/15(月)	10-12月期日銀短観	12月NY連銀製造業景況指数	(中) 11月生産・小売・投資				
12/16(火)		11月雇用統計	(欧) 12月PMI (速報値)				
			(独) 12月ZEW景気指数				
12/17(水)	10月機械受注	20年債入札	(独) 12月IFO企業景況感指数				
	11月貿易統計						
12/18(木)		12月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	(欧) ECB定例理事会				
12/19(金)	11月消費者物価指数	11月個人所得・消費支出					
	植田日銀総裁定例会見	11月中古住宅販売					



◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/11/28

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年12月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【11/7～13】

◎ 10 月の新車販売は8.8%増、新工ネ車比率、初の5 割超え

中国自動車工業協会は11 日、中国の2025 年10 月の新車販売台数が前年同月比8.8%増の332 万2,000台だったと発表した。プラスは9 カ月連続で、伸びは9 月（14.9%）から鈍化したものの、生産・販売はともに同月の過去最高を更新した。

「新エネルギー車（NEV）」が販売台数に占める比率は初めて5 割を突破。NEV の購入時にかかる車両購入税の免除措置が終了する前の駆け込み需要を追い風にした。輸出台数は前年同月比22.9%増の66 万6,000 台、前月から2.1%増えた。

【11/14～20】

◎ 中国化粧品品の海外開拓進む、東南アやロシアへ、政府も後押し

中国税関総署が発表した中国産化粧品品の2025 年1-9 月の輸出額は前年同期比10.3%増の58 億2,000 万米ドル（約9,020 億円）だった。輸入額は0.4%増の123 億9,000 万米ドルで、輸出の伸びは輸入を大きく上回った。

中国ブランドは、東南アジア諸国連合やロシアなどでの事業展開を強めることで、貿易摩擦問題が広がる主力の米国向けなどの低迷分を吸収した。中国政府は化粧品品の安全性を検証するための動物実験を減らすなど、企業が輸出しやすい環境づくりを進めている。

主要経済指標

項目	単位	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10
実質GDP成長率	%	5.4	-	-	5.4	-	-	5.2	-	-	4.8	-
消費者物価上昇率	%	0.1	0.5	-0.7	-0.1	-0.1	-0.1	0.1	0	-0.4	-0.3	0.2
都市部調査失業率	%	5.1	5.2	5.4	5.2	5.1	5.0	5.0	5.2	5.3	5.2	5.1
輸出額	10億ドル	335.6	324.3	214.8	313.1	315.1	315.6	325.0	321.4	321.5	328.5	305.4
輸入額	10億ドル	230.5	186.3	183.7	211.1	219.2	212.8	210.6	223.6	219.4	237.9	215.3
経常収支	100万ドル	423,919	-	-	165,449	-	-	294,149	-	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,202.4	3,209.0	3,227.2	3,240.7	3,281.7	3,285.3	3,317.4	3,292.2	3,322.2	3,338.7	3,343.3
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.28	7.31	7.28	7.25	7.30	7.21	7.18	7.17	7.17	7.13	7.12

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利 出所：Bloomberg

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年12月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○EV向け充電設備の強化

NEV普及が急速に進んでいると同時に、地域によって充電時間の長さや充電設備の不足等の課題が残っています。

充電設備の普及地域を見ると、広東省や浙江省、上海市などの上位10地域が66%以上を占めており、主に経済発展している都市部に集中しています。

業界関係者は、農村地域における充電設備の整備は大きく遅れていると指摘しています。

また、都市部の市街地や住宅地、高速道路エリアも比較的少なく、NEVの普及を抑制しているとの見方を示しました。

2025年上半期にガソリン車からNEVに乗り換えた消費者の割合が、2021年以降で初めて縮小に転じました。

縮小幅自体は小さいものの、航続距離と充電への不安が主な要因と分析されています。

ただNEV普及が進む大きな流れは変わらず、充電設備は大きく増加しています。9月末時点の充電施設は前年同月比54.5%増の1,806万基に達しました。

内、公共充電スタンドは40%増、個人・民営スタンドは60%増でした。1-9月に新設した充電設備数は、前年同期比84.9%増の525万基、同期のNEVの販売数は947万台でした。

増加ペースでは充電設備とNEV販売の比率は、約1対1.8となっています。

政府は、10月に全国の充電設備の数を「3年で2倍」とする計画を打ち出し、充電公共施設の建設を推し進めるほか、住宅区などで個人用充電器の設置を促します。

2027年末までに電気自動車8,000万台以上の充電需要に対応できる体制を整え、特に充電施設の整備が遅れている農村地域への整備支援を強化し、NEV販売の拡大を後押しすることを狙っています。



◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/11/28

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年12月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆ 2025年9月の景気、回復の兆候

- ・タイ中央銀行は2025年9月の経済報告書で、タイの経済は回復の兆候が見られたと発表した。工業生産は拡大し、貿易や運輸等のサービス部門の活動を支えた。
- ・鉱工業生産指数は前年同月比1.0%上昇し、3カ月ぶりのプラスとなった。電子部品や電気自動車（BEV）、プラグインハイブリッド車（PHEV）の生産が増加した。一方、一般機械や食品・飲料の生産は減少した。
- ・民間投資は同5.2%減と、前月の同9.1%増から落ち込んだ。機械・設備投資は低下したが、工場建設の増加に支えられ、建設投資はわずかに拡大した。民間消費は同2.3%増だった。耐久・準耐久・非耐久財消費財がそれぞれ増加した。外国人旅行者の増加に伴い、観光収入は増加した。

◆ 2025年10月のCPI、前年前月比0.76%下落

- ・タイ商務省が発表した2025年10月の一般消費者物価指数（CPI）の平均値は、前年同月比0.76%下落し、7カ月連続のマイナスとなった。石油燃料や野菜・果物の価格の下落

が目立った。

◆ 米国と貿易枠組み合意、輸入品99%の関税撤廃

- ・タイ政府は10月26日、米国タイ相互貿易協定の枠組み合意に至ったと発表した。主な合意事項としては次の通り。
- ・米国原産の工業品・農製品の約99%に対する輸入関税を撤廃、米国の安全・排出基準に適合した自動車輸入の承認や、燃料用米国産エタノールの輸入許可、医療機器認可手続きの迅速化等非関税障壁の緩和も。
- ・米国側は、タイに対する「相互関税」の税率を19%に維持する一方、一部品目の関税を段階的にゼロとする。対象は医薬品、食料品、農産物等。
- ・両政府は今後協定内容を最終決定し、発効手続きを行う予定。

主要経済指標

項目	単位	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10
実質GDP成長率	%	3.3	-	-	3.2	-	-	2.8	-	-	1.2	-
消費者物価上昇率	%	1.2	1.3	1.1	0.8	-0.2	-0.6	-0.3	-0.7	-0.8	-0.7	-0.8
失業率	%	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	-
輸出額	100万ドル	24,765	25,277	26,707	29,548	25,625	31,045	28,650	28,581	27,743	30,971	-
輸入額	100万ドル	24,638	27,157	24,719	28,575	28,946	29,928	27,588	28,259	29,708	29,696	-
経常収支	100万ドル	2,622	3,445	6,164	1,549	-1,606	-561	3,108	2,397	-1,521	1,873	-
外貨準備高	10億ドル	237.1	242.1	244.8	245.3	256.8	257.6	262.4	261.9	267.4	273.3	272.0
主要政策金利	%	2.25	2.25	2.00	2.00	1.75	1.75	1.75	1.75	1.50	1.50	1.50
対ドル為替レート	バーツ	34.2	34.2	33.8	33.8	33.8	33.0	32.6	32.5	32.4	32.0	32.6

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/11/28

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年12月号)

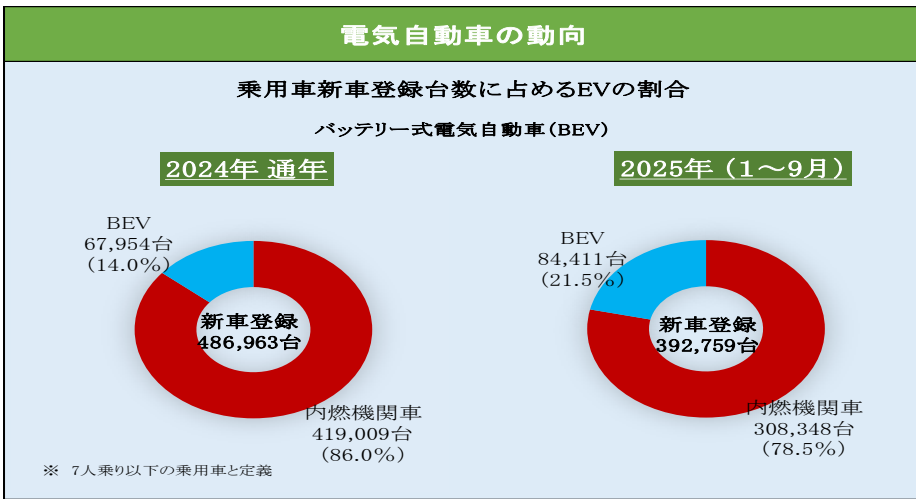
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

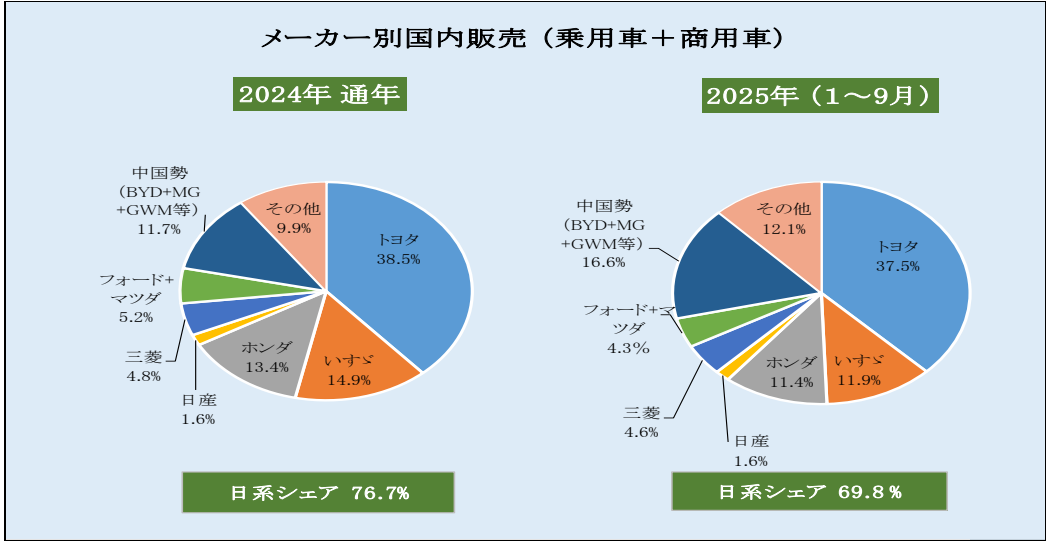
りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向								
			2022年	2023年	2024年	2025年 (1～9月)	前年同期比 (%)	9月
【台数】			(台)					
四輪	生産台数	乗用車	600,839	648,803	558,440	395,713	92.7	49,473
		商用車	1,282,676	1,192,883	910,557	680,088	97.0	78,631
		合計	1,883,515	1,841,686	1,468,997	1,075,801	95.4	128,104
	国内販売台数	乗用車	265,069	292,505	224,148	174,111	102.5	19,671
		商用車	584,319	483,275	348,527	273,858	102.3	28,679
		合計	849,388	775,780	572,675	447,969	102.1	48,350
輸出台数		1,000,256	1,117,539	1,019,213	689,031	89.6	86,056	
二輪	生産台数	2,015,940	2,120,738	1,887,208	1,514,942	105.5	156,742	
	国内販売台数	1,792,016	1,856,814	1,683,239	1,315,346	102.6	134,440	
	輸出台数	1,034,840	822,608	938,762	645,232	107.3	75,214	
【完成車輸出金額】 (百万バーツ)								
四輪			619,348	719,992	699,163	462,553	86.8	55,776
二輪			73,729	68,589	63,969	45,813	99.2	4,402

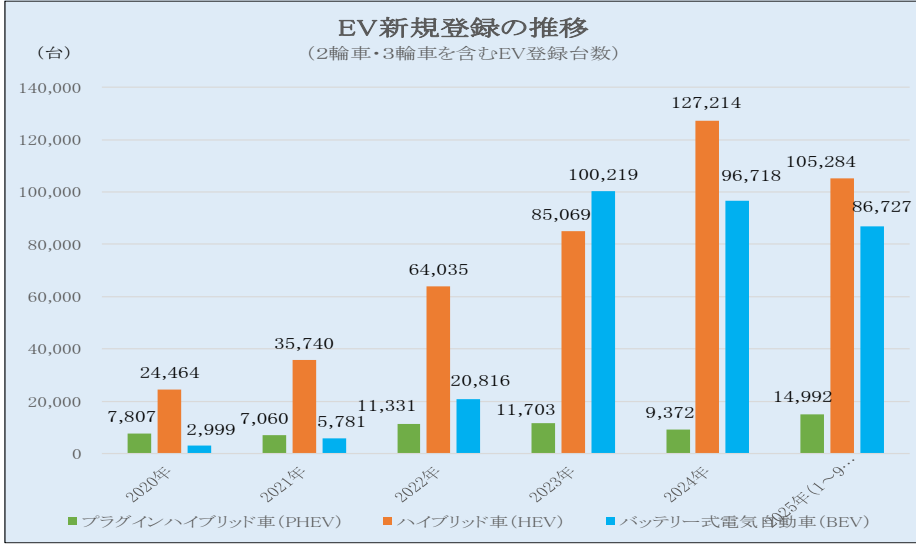
出所:タイ工業連盟(FTI)



出所:タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所:タイ国トヨタ自動車のデータを基に作成



出所:タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局